

雨水貯留施設の整備により、浸水被害を軽減する

【対策】1-2 流域治水対策(下水道)

対策概要: 気候変動の影響等により、大雨等が頻発し、内水氾濫が発生するリスクが増大していることから、近年浸水実績がある等、浸水被害の危険性が高い地区において、浸水被害の防止・軽減のための雨水排水施設など下水道による都市浸水対策を実施する。

府省庁名: 国土交通省

【事例】東川口貯留管の整備

- 実施主体: 埼玉県川口市
- 実施場所: 埼玉県川口市
- 事業概要: 過去に度々道路冠水が発生していた地区において、浸水被害を軽減するための雨水貯留管(直径φ4,650mm、長さL=418m、貯留量V=7,100m³(小学校のプール約20杯分))を道路の下に整備し、令和5年3月に供用開始した。
- 事業費: 約29億円(R1~R5)
(うち5か年加速化対策(加速化・深化分) 約7億円)
- 効果: JR東川口駅周辺の高架下付近では、令和2年8月の大雨(39.0mm/h)により浸水深80cmの道路冠水が発生したが、令和5年梅雨前線による大雨(40.5mm/h)では、貯留管が約3,600m³の雨水を貯留したことで、同じ箇所で道路冠水の被害は発生しなかったなど浸水被害が軽減された。



効果



令和2年8月の大雨



令和5年梅雨前線による大雨

令和5年梅雨前線による降雨量

